

ノーモア・ヒバクシャ通信 第24号

発行 2015年8月31日

ホームページ <http://www.kiokuisan.jp/>
継承ブログ <http://keishoblog.com/>
フェイスブック <https://www.facebook.com/kiokuisan>

発行者 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会
〒102-0085

東京都千代田区六番町15 プラザエフ6F

Tel/Fax 03-5216-7757 (直通)

Email hironaga8689@gmail.com

郵便振替口座 00170-5-694752

(口座名義) ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産基金

★もくじ

I. 第2回理事会のご報告	P 1
II. 「継承センター設立構想」スライド・ムービーをHPにアップ	P 2
III. 部会、作業グループの取り組みから	
1. 資料収集部会	P 3
2. 広報電子化部会	P 3
3. 継承・交流部会 「被爆70年アンケート」	P 4
IV. 各地の取り組み、関連企画から	
0. みなさんの継承の取り組みをお知らせください。	P 4
1. 【東京】10/17「被爆70年 広島・長崎は、なんだったのか？」のご案内	P 5
2. 【広島】8/5「被爆70年 核兵器のない世界のために被爆者と市民のつどい」	P 5
3. 【福岡】エフコープの聞き書き証言集第21集を寄贈いただきました。	P 6
4. 【東京】「the pigeon voices 被爆者ひとりひとりの人生と出会う」	P 7
5. 【埼玉】7/26 埼玉県原爆死没者慰霊式で被爆証言を朗読	P 8
6. 【東京】7/30 JCCC 協同組合塾「想いを継承し核兵器廃絶の声を広げよう」	P 9
7. ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワーク	
(1) 【東京】7/4「被爆の証言を聞くつどい」を開催しました	P 11
(2) 【東京】8/19(水)「被爆者をつくるミニ映像作品」次回は9/13です	P 11
(3) 【東京】12/19「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」を開催します	P 12
(4) 【東京】過去の打ち合わせ報告と今後の予定	P 13
V. 《紹介》この夏の出版から	
1. 直野章子著『原爆体験と戦後日本 記憶の形成と継承』	P 14
2. 関千枝子著『ヒロシマの少年少女たち——原爆、靖国、朝鮮半島出身者』	P 14
VI. 2015年度会費納入のお願い	P 14

I. 第2回理事会のご報告

7月11日(土)午後1時半～4時半、東京四谷の主婦会館プラザエフ会議室で開催されました。主な審議事項と討議の概要は、次の通りです。

(審議事項)

(1) 「継承センター設立構想」の具体化に向けて

- 1) クラウドファンディングへの取り組みについて
- 2) 当面の必要資金の想定と今後の取り組みについて
- 3) 各部会の取り組みについて

(2) 改めて認定申請に向けて

(3) その他

(討議の概要)

・クラウドファンディングへの取り組みは、被爆体験などの記録を収集してデジタルアーカイブ化するシステムのひな型をつくることが目的です。目標金額を200万円とし、広く一般の方々にこの会の取り組みを理解していただく機会とすることが大事と強調されました。

・当面の必要資金の想定と今後の取り組みについては、「一人でも多くの被爆者に語っていただく」など共感をえやすいデジタル化の優先順位とアウトプットを決めた方がよいとの指摘がありました。また、「継承センター設立構想」(スライドムービー)をあらゆる機会にPRする必要があると強調されました。資金については組織財政部会で検討することとします。

・NPO法人の税制上の優遇措置が受けられるよう、仮認定申請に取り組むこととしました。

なお、城南信用金庫やカルビー本社を訪問し継承する会への理解を広げていく取り組みなどが報告されました。

II. 「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産の継承センター設立構想」

スライド・ムービーが完成、ホームページにアップ

5月の定期総会で発表された「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産の継承センター設立構想」のナレーション付スライド・ムービーが完成し、このほど継承する会と日本被団協のホームページに掲載されました。

全体で32の画面、19分余りのムービーはとても聞きやすく、継承する会がどんなセンターづくりを目指しているのか、またそれに向けてどんな段取りを踏みながら中身をつくりあげていこうとしているのかを、分かりやすく示しています。会のセンター構想を多くのおみなさんに広め、ご理解いただくために、このムービーを大いにご活用くださいますようお願いいたします。

Ⅲ. 部会、作業グループの取り組みから

1. 資料収集部会

この夏も8月2日から愛宕事務所で、昭和女子大学の学生さんらの夏休みを利用した被爆者運動資料の整理作業が進められています。「今年の1年生はとても積極的」で申し込みは予想をはるかに上回り、延べ40日分の作業日程のシフトを組む松田先生がうれしい悲鳴をあげるほど。結局、一人一日ずつの割り当てで38人が参加してくださることになっています。

今回整理する主な資料は、東京の被爆教師、横川嘉範さん(故人)が遺された平和教育、東京や世田谷区の被爆者運動に関わる資料(段ボール3箱分)を皮切りに、日本被団協の1995年調査票や関連資料、1980~90年代の被爆者運動(諸会議、国会行動、調査など)の事務局記録メモなど。今から20年前、被爆50年の調査票には、半世紀にわたる被爆者としての苦しみや、制定直後の援護に関する法律についての被爆者たちの意見が詳細に記されており、しばしば作業の手を止めて真剣にその記述に見入る学生さんらの姿が見られました。並行して、「自分史つうしん ヒバクシャ」に寄せられた各地の被爆者の自分史作品や原稿、手紙などの整理も始まっています。

また、7月から借用できることになった南浦和の資料室(コーププラザ浦和4階)には、愛宕事務所で整理された運動関係資料が入ったもんじょ箱を収納するスチール棚を設置。7月23日に、もんじょ箱93箱と横川さん寄贈の書籍や『平和教育』バックナンバーを含む雑誌類19箱、その他各方面から寄贈いただいた原爆関係書籍や冊子類段ボール150箱分が運び込まれました。

この資料室は、奥を資料庫として、手前の会議室を資料整理作業に利用させていただくこととなります。当面、8月29日から9月9日にかけて、これも昭和女子大学の学生さんに協力いただきながら、書籍・冊子類の分類・整理作業が始められることになっています。

2. 広報電子化部会

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会の継承する会のfacebookを起ち上げました。昨年12月の「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」で被爆の証言のインタビュー、閉会挨拶など大活躍した鈴木美穂さんを中心に運営していきます。これから内容を充実させていきますのでよろしくお願ひいたします。

URL : <https://www.facebook.com/kiokuisan>

3. 継承・交流部会

〈被爆70年を生きて「被爆者として言い残したいこと」調査〉にご協力を

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会では、被爆70年の今年、日本被団協と協力して〈被爆70年を生きて「被爆者として言い残したいこと」調査〉に取り組んでいます。これは、〈原爆地獄〉を体験し、その後の70年を生きて来た被爆者に、あらためてこの歳月をふり返り、いまこれだけは言い残しておきたい、訴えたいという一人ひとりの思いを記していただき、次世代に伝え、活かしてもらうためのアンケートです。調査票の設計・集計・まとめには若手の研究者らが協力。寄せられたこえは継承する会で保存し、被爆者の思いを将来にわたって人々に伝えるために活用していきます。

調査票は、当面「被団協」新聞8月号の付録として同封して、協力を呼びかけています。すでに毎日のように返送されてきていますが、さらに読者以外の被爆者にも広げていく予定です。みなさんから身近な被爆者やお知り合いの被爆者にも、ぜひ協力を呼びかけてください。

自記式のアンケートですが、自分で書くことが困難な場合は、ご家族や周囲の方が聞きとって書いていただいてもけっこうです。また、用紙の空欄に書ききれないときは、別紙に書いて添付してください。調査票が必要なときは、日本被団協にご連絡ください（コピー、増し刷りも可）。

アンケートの〆切（第1次）は9月末日。日本被団協宛にお送りください。みなさんのご協力を心より願います。

【問い合わせ・返送先】日本被団協

〒105-0012 東京都港区大門 1-3-5 ゲイブルビル 902

電話 03-3438-1897 FAX 03-3431-2113

IV. 各地の取り組み・関連企画から

0. みなさんの継承の取り組みをお知らせください。

被爆70年の今年、各地で様々な継承の取り組みが行われ、予定されていることと思います。継承する会では「ノーモア・ヒバクシャ通信」、継承ブログ、新規に開設したfacebookなどを通じて各地の継承の取り組みを結び、交流していきたいと考えています。

ぜひ、みなさんの継承の取り組みをお知らせください。

1. 【東京】10/17「被爆70年 広島・長崎は、なんだったのか？

～今を戦前にしないために～」のご案内

(日本原水爆被害者団体協議会)

10月17日(土)に東京・日比谷公会堂で、被爆70年のつどいを開催します。(同封のチラシをご覧ください。)日本被団協、ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会をはじめとする団体・個人から成る実行委員会によって準備が進められています。賛同者・賛同団体は70を超えました。

当日のメイン企画は、被爆70年の歴史と被爆者のあゆみを振り返るパートです。現在、ワーキンググループが奮闘中で、大学生や研究者、劇作家など、戦争を体験していない人たちが、被爆者の話を丹念に聞き、このつどいで、被爆者が切り開き積み上げてきたことをどう表現し参加者と共有するか、企画会議が重ねられています。映像や音楽も織り交ぜながらの時間となる予定です。

被爆70年の今年、2500席の日比谷公会堂をいっぱいにして、ごいっしょに現在・未来のことを考えましょう。チラシを配布していただける方、チケットを預かってくださる方は、実行委員会までご連絡ください。

2. 【広島】8/5「被爆70年 核兵器のない世界のために 被爆者と市民のつどい」

(日本原水爆被害者団体協議会)

被爆70年の8月5日、「核兵器のない世界のため 被爆者と市民のつどい」が、広島の文化交流会館で開かれました。広島・長崎両市後援、個人・団体の協賛で日本被団協が主催。被爆者、高校生、大学生など国内外から330人を超える参加者で会場はいっぱいになりました。

司会は俳優の斉藤とも子さん。広島ジュニアマリンバアンサンブルの演奏で開会しました。アニメ映画「つるにのって」の原案者美帆シボさんがあいさつし、映画主題歌を子どもたちと共に歌いました。笑顔で奏でるマリンバ演奏に、大きな拍手が送られました。

国連のキム・ウォンス軍縮担当上級代表代行が登壇し、パン・ギムン事務総長のメッセージを読みあげました。

被爆者の証言は、広島被爆の三宅信雄さん(埼玉・被爆時15歳)と長崎被爆の漫画家西山すすむさん(福岡・被爆時17歳)。「あの日」の体験とともに、証言を始めたきっかけや運動を続ける決意を語りました。

日本被団協の田中熙巳事務局長が「被爆70年の時を刻んで 被爆者の死と生のたたかい」と題して映像とともに報告と提言を行ないました。

若い担い手として、福山の盈進高校の橋本瀬奈さん、広島の大学生の小林卓也さん、日本青年団協議会会長の照屋仁士さん、ノーモア・ヒバクシャ訴訟弁護団の諸富健さんが、それぞれの立場から、被爆体験の継承と核兵器廃絶への決意をのべました。

会場からは、愛媛大学と原水禁世界大会参加の学生が、被爆の体験を忘れないよう継承したいと発言。広島県被団協の清水弘士事務局長は、広島での若い人たちの核兵器廃絶の集会に感動し、希望を感じたと述べました。

被団協と二人の被爆者をノーベル平和賞に推薦している国際平和ビューロー事務局長のコリン・アーチャーさんが挨拶。赤十字国際委員会駐日代表リン・シュレーダさんのメッセージが紹介されました。

広島生まれのラテン・シャンソン歌手財満光子さん（85歳）が「平和の歌」など力強く歌い、広島合唱団は熱唱の後「青い空は」を会場と一体で歌いあげました。

坪井直日本被団協代表委員の閉会挨拶のあと、「今こそ核兵器のない世界を 被爆70年 広島・長崎宣言」が濱住治郎日本被団協事務局次長により読みあげられ、斉藤さんの「被爆者の皆さんは平和の証、若い人たちのためにも一日も長く生きてください」との言葉でつどいを閉じました。

3. 【福岡】エフコープの聞き書き証言集第21集を寄贈いただきました。

（ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会事務局）

エフコープ生活協同組合より「聞き書きによる被爆体験集21 つたえてください あしたへ……」をご寄贈いただきました。エフコープの聞き書きは1994年から続いています。21集には広島証言1編、長崎証言7編、朗読シナリオ「1945年・原子雲の下で」2編が掲載されています。

【「つたえてください あしたへ」のあとがきより】

戦後70年、被爆70年を迎える今年、『つたえてください あしたへ』の被爆体験証言集は第21集の発刊となりました。これは戦争を知らない若い世代に「被爆の悲惨さ、戦争の愚かさを伝え続けたい」という思いで、エフコープの組合員が中心となり、被爆者の方々からその体験をお聞きし、まとめたものです。



これまでも大変多くの方々が、平和の願いを込めてお話してくださいました。しかし今日では戦争、被爆の体験を話して下さる方が少なくなり、記憶の風化が懸念されています。私たちは今ある平和に感謝し、過去の戦争から目を背けることなく真実を知り、学び、そして伝えていかなければと思っています。

また今年にはNPT再検討会議が開催され、核兵器廃絶に向けた話し合いが行われるなど世界

各国でも平和についての関心が高まっています。そんな中、政府によって憲法の解釈変更による集団的自衛権行使容認が閣議決定されました。日本が再び戦争に巻き込まれる日がくるのでは、という不安を感じずにはられません。

戦争は私たちの生活を根底から脅かすものであり、武器からは何も生まれません。人が人として尊重される平和な社会をつくっていくためにも、「平和の大切さ」「命の尊さ」を伝えていく取り組みを今後も続けていきたいと思えます。

最後に、この証言集の発刊にあたっては、今年も福岡県原爆被害者団体協議会をはじめ、各原爆被害者の会の皆様より多大なご尽力、ご協力をいただきました。ここに深く感謝を申し上げます。また、証言集は組合員より寄せられた「平和活動募金」を活用しています。ご協力ありがとうございました。

2015年6月
エフコープ「聞き書き」活動参加者一同

【問合せ先】

〒811-2495

糟屋郡篠栗町篠栗4826-1

エフコープ生活協同組合組合員活動部

TEL 092-947-9003 FAX 092-947-9191

『つたえてください あしたへ』のバックナンバーはエフコープにwebサイトで読むことができます。

URL : <http://www.fcoop.or.jp/action/heiwa/tsutaete/>

4. 【東京】「the pigeon voices 被爆者ひとりひとりの人生と出会う」

(the pigeon voices)

01【side:証言】吉田一人(よしだ・かずと)さん(83歳)



被爆証言とそれを証言した方のインタビュー記事をWEBで発信する企画「the pigeon voices 被爆者ひとりひとりの人生と出会う。」(以下tpv)をスタートしてから約半年が経ちました。この間、取材・WEB管理・写真といった作業には30歳前後の5名が参加し、3名の被爆者にご協力いただきました。

現在、9月に予定している次の取材への参加者を募集しています！本文の後に詳細がありますので、興味のある方はご連絡ください。

tpv の取材時間は約 2 時間で、1/4 は写真撮影、1/4 は被爆体験や私たちへのメッセージの聞き取り、残りの半分は証言者の人生経験に迫るインタビューの時間となります。事前に被爆体験が記された手記や証言記録を読み込み、短時間面会したときの会話や電話連絡した際の雰囲気など様々な情報を合せて質問を考えて会場へ行き、対話を進めます。それぞれの被爆者の生き方にほんの少しでも迫ると共に、原爆の体験がどのようなかたちで一人の人生に関わっているのか知る機会にもなります。

◆ 次回の取材

日時：2015 年 9 月 13 日（日）10:00～12:00 頃

取材に応じてくれる方：T さん（長崎市出身、東京都在住）

場所：高円寺駅近くの公共施設

参加連絡・問い合わせ先：thepigeonvoices@gmail.com

02【side:人生】井上惣左衛門く
いのうえ・そうざえもん>さん(89
歳)



井上惣左衛門さんは、長やの長八のおいぢやんです。長崎はゆゑなやばい、お
話しているときも笑顔が目にキラキラ輝くのが印象的です。

10歳まで新潟県長岡市に生まれ育ち、20歳で移住したときは埼玉県 春日野町 高
野中学校(当時)の卒業でした。移住後、長崎県長崎市に移住し、長崎県立長崎

◆ 企画概要

趣旨：若い世代が被爆者の思い、経験を受け継ぐ一歩とする。被爆証言の発信力を高める。

URL：<http://thepigeonvoices.tumblr.com/>

これまでの経緯：

2015 年 1 月 31 日(土) 企画の立ち上げ

4 月 1 日(土) 一回目公開

5 月 26 日(火) 二回目公開

8 月 6 日(木) 三回目公開

10 月 5 日(月) 四回目公開予定

5. 【埼玉】7/26（日）埼玉県原爆死没者慰霊式で被爆証言を朗読

市川京子（被爆体験聞き書き行動実行委員会）

7/26(日)第30回の埼玉県原爆死没者慰霊式は例年の別所沼公園の慰霊碑の前で行なっていましたが、被爆70年の今回は広く市民の皆さんに参加していただけるよう埼玉会館小ホールでの開催となりました。午前の部が慰霊式、午後の部が核廃絶のためのシンポジウム『核兵器とは共存できない』と、有原誠治監督のアニメ映画「1945 NAGASAKI アンゼラスの鐘」の上映の三部構成でした。



ぎりぎりまで校正を重ね、後からじっくり読むことができるよう、他の人にも伝えられるよう、全員に原稿を配りました。式後、しらさぎ会の人や参列者からよかったよとの声をいただき、苦勞した甲斐がありました。

シンポジウムは埼玉県原爆被害者協議会（しらさぎ会）名誉会長の肥田舜太郎氏（98歳）と元会長の堀田シヅエさん3（95歳）、現会長の田中熙巳氏3人の対談でした。警察や米軍の干渉や弾圧、会の設立や被爆者運動などを元気すぎるほどに語ってくださり、斉藤とも子さんのみごとなコーディネートで終始笑いと感じと元気になるあつという間の1時間でした。シンポジウムには初めてと思われる若い方も多く、家族連れの参加もあり、難しくならないかなとの心配は無用でした。

「アンゼラスの鐘」は、アニメ映画とは思えないほどの迫力があり、圧倒されました。一つの原子爆弾が人々に、家庭に、職場に、地域に何をもたらしたか、むごすぎるけど、人々は受け入れるしかなく、命をつなぐことに全力を挙げていく様をみごとに描ききっていると思いました。

6. 【東京】「ノーモア・ヒバクシャの想いを継承し、核兵器廃絶の声を広げよう」が開催されました 三崎敬子（JCCU協同組合塾）

7/30（木）午後6時からコーププラザ2階震災対策室にて開催され、27名の参加がありました（そのうち労組員は19名）。

1951年3/20の日本生協連の創立総会は、その前年に朝鮮戦争が勃発して米軍占領下の日本も巻き込まれ、マッカーサーが核兵器使用を考えたという緊迫した状況のもとでに開催され、「平和とよりよき生活のために」が盛り込まれた「創立宣言」とともに「平和宣言」が採択されました。

国連軍縮特別総会、国際司法裁判所の勧告的意見を引き出した「世界法廷運動」、そのことによって開催されることになったNPT再検討会議には日本から核兵器廃絶を訴える声を届けるため、生協からも代表を送り出してきています。被爆・終戦70周年にあたる今年2015年は5年に1度のNPT再検討会議が4月末から開催され、45生協から91名の代表団が派遣されました。

JCCU協同組合塾では、核兵器廃絶や平和のための活動もテーマに取り上げてきており、今年度第1回例会を、NPT再検討会議に参加した方々の講演・報告という企画にしました。

【報告①：日本生協連組合員活動部からの報告 山田浩史さん】

NPT再検討会議に向けた取組みと会議開催中の生協代表団の活動、帰国後の主な取組みを15分にまとめてパワーポイントを使って報告していただきました。



【報告②：日本生協連労働組合代表派遣者の報告 武藤睦美さん】

生協労連から25名の代表団が代表派遣され、「国際平和地球会議」に参加し、ニューヨークで署名・宣伝活動やパレードを行うなどの取組みをされてきたことを報告していただきました。写真は、NYの宣伝行動と同じ浴衣姿で報告する武藤さんと横で聞く山田さん。卓上にはNYで使われたプラカード団扇が！

【講演：被団協事務局次長(千葉県在住の広島の被爆者) 児玉三智子さん】

(1)私の被爆体験、(2)核なき世界を求めての行動、(3)千葉県原爆被爆者の被爆体験聞き取り活動実行委員会の取組みについて、お話をいただきました。

なお、質疑応答の時間には、千葉の実行委員会で共に活動された元ちばコープ理事長の高橋晴雄さんも参加いただいていたので証言集作成・普及の取組みのお話をしてくださいました。

JCCU協同組合塾」ブログ記事のURL

<http://jccu2010.blog130.fc2.com/blog-entry-259.html>

7. ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワーク

(1) 【東京】7/4(土)「被爆の証言を聞くつどい」を開催しました

～これから過去ばかりではなく今のことも学び考えていきたい～

ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワークは7/4(土)都内四ツ谷の主婦会館プラザエフで今年2回目の「被爆の証言を聞くつどい」を開催しました。証言者は家島昌志さん(広島で3歳のときに被爆)。証言者の家島さんの他にも広島と長崎の被爆者が2名、受け継ぎ手の若い世代をはじめ9名で証言を聞き、ディスカッションを行いました。

【参加者の感想】



■お話の中でマンハッタン計画という言葉が出ました。これがどういったものなのかを学ぶ勉強会があってもいいのではないかと思います。

■原爆は過去のことで、被爆者が亡くなっていくから私が語り継がなくてはと考えていた。(原爆症認定の集団訴の)お話を聞いて今、生きている被爆者の方々も守っていかなくてはいけないなと思った。これから過去ばかりではなく今のことも勉強して考えていきたい。

■継承していくということは大事なことです。私も被爆した時は幼かったので当時の悲惨な現状を記憶にとどめているわけではないので、僕らの出番はないと当初は思っていました。しかし一つの入り口として伝えていけることは伝えていこうと思います。



(2) 【東京】8/19(水) 被爆者をつくるミニ映像作品」

8/19(水)午後、東京四ツ谷主婦会館プラザエフ5F会議室で「被爆70年 ヒロシマ・ナガサキを受け継ぎ発信する 被爆者をつくるミニ映像作品」を開催しました。証言者は片山昇さん(日野市在住 13歳の時に広島で被爆)。2014年に証言頂いた時の記録から早稲田大学2年生の吉村優子さんが準備した台本をもとに、20代から50代まで4名の参加者と片山さんご本人が一緒になって台本作りをすすめました。

「同じ証言を聞いても世代や経験によって感じるところが違う。自分もヒロシマ・ナガサキではないが取り組んでいるので参考になった。」「5分間という時間だからこそ、その人の体験をそのまま伝えたい。」



13時から15時半まで限られた中で何を伝えるのか、活発な議論が続きました。台本は9割くらい完成し、次回は台本の最終確認をして音入れ、使用する画像などを決めて作品を完成させます。

次回は9月13日（日）東京四ツ谷主婦会館プラザエフ5F会議室で13時から、遅くとも16時には終わるように作品制作を進める予定です。

どなたでも参加いただけますが、定員は多くても6～7名にしたいと思います。台本と使用画像の最終確認になるので参加される方には事前に資料をお送りします。参加を希望される方は必ず事前にご連絡ください。



（3）【東京】12/19「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」を開催します

「被爆者の方たちの話を聞くことの大変さ、話しを継承していくことの大変さ、伝え方の大切さについて考えさせられました。自分もなにかできることがあればと思います。」
「それぞれの地域で来年の被爆70年を契機にして、自分の身近なところから、できることから、いろいろ取り組んでいきましょう。来年の秋にも、今日のようなイベントを行いたいと考えています。その時にはひとり3分でないと時間がカツカツになってしまうくらい、もっと多くの若者がこの活動に取り組んで、このネットワークをどんどん広げていきたい。」昨年12月に主婦会館プラザエフB2クラルテで開催した「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」は100名の参加で盛会のうちに終了することができました。

被爆70年の今年はヒロシマ・ナガサキをはじめ戦争体験の「継承」が大きなテーマになっています。12月で各地の今年の取り組みを紹介、交流し、来年以降の取り組みにつなげていく「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」を開催します。

ヒロシマ・ナガサキを継承していく各地でヒロシマ・ナガサキを語り、受け継ぐ取り組みをしてきた方、これから何か始めようと考えている方、ちょっと関心があるんだけどという方…、さまざまな人たちが参加できるつどいです。あなたもぜひ、ご参加ください。

日時 : 12月19日（土）午後1時半～4時半（開場は13時）

場所 : 東京四ツ谷 主婦会館プラザエフB2クラルテ

（東京都千代田区六番町15 JR四ツ谷駅麴町口出てすぐ）

主催 : ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワーク
参加費 : 500円 (高校生以下無料)

内容 :

- 全体企画 (企画を相談中)
- 各地の取り組みをつなぐリレートーク
- 被爆の証言
- ミニコンサート (予定)

(4) 【東京】過去の打ち合わせ報告と今後の予定

東京四ツ谷の主婦会館プラザエフ5F会議室で7/18(土)第7回打合せ(10名)、8/22(土)第8回打合せ(5名)で、それぞれの取り組みを交流しながら12月の「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」の企画、7/4「被爆の証言を聞くつどい」(9名)、「被爆者をつくるミニ映像作品」(5名)などの取り組みを進めてきました。

第9回打ち合わせを以下の日程で開催します。参加される方は事務局(島村)までご連絡ください。

■ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワーク第9回打ち合わせ

日時 : 9月13日(日) 16:00~18:00

場所 : 東京四ツ谷主婦会館プラザエフ5F会議室

内容 : 「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」の全体企画やプログラムについて

【ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワークとは】

日本被団協とノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会は、2013年12月に開催した「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」を機に、被爆者と受け継ぎ手が協力して、被爆者一人ひとりの声に耳を傾け、語り合い、記録に残す取り組みを呼びかけました。この呼びかけにこたえた個人、グループ、団体のネットワークです。『被爆者からのメッセージ』の制作や「被爆の証言を聞くつどい」、「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」などを企画してきました。取り組みは継承ブログなどでご案内しています。どなたでも参加いただけます。

【お問い合わせ】

事務局 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会(島村)まで

E-mail: shimamura_kiokuisan@yahoo.co.jp

直通 TEL/直通 FAX 03-5216-7757

VI. 《紹介》この夏の出版から

1) 直野章子著『原爆体験と戦後日本 記憶の形成と継承』（岩波書店、定価：3,200円＋税）著者は九州大学大学院准教授、本会理事。

「原爆被爆体験」や「被爆者」という主体性は、戦後日本における戦争体験の記憶、原爆被害調査、戦争被害者援護制度、核をめぐる国際政治、国内の保革政治、原水爆禁止運動や被爆者運動など、多様な言説空間のなかで形成され、変容してきました。その過程を実に実に多くの文献や証言をていねいに読み込みながら明らかにすることで、著者は、「原爆被爆体験」や「被爆者」の境界線は可変であり、「被爆体験」とは被爆者とその同伴者によって形成されてきた、共同作業の果実なのだと思います。

質量ともに、決してたやすく読める本ではありませんが、覚悟をもって読み込めば、「被爆体験の継承」への深い示唆を与えられます。

2) 関千枝子著『ヒロシマの少年少女たち——原爆、靖国、朝鮮半島出身者』（彩流社、定価：1,800円＋税）著者は本会正会員。

平和大通りは、子どもたちの墓場だった。「あの日」、生死を分けた「運」によって生き残った著者は、『広島第二県女二年西組——原爆で死んだ級友たち』（筑摩書房、1985）を著して後も、建物疎開に動員されて亡くなった約6,000人の少年少女の死の実相と意味にこだわりつづけてきました。被爆から70年。これ以上新しい資料が出てくることは考えられないところまで調べつくし、世に問う書。国民学校の死者に女子が多いのはなぜ？靖国合祀で切り捨てられた朝鮮人生徒たち。「建物疎開」とは何だったのか？

IV. 2015年度会費納入のお願い

会費の振込用紙を同封させていただきました。すでにお納めいただいているみなさまには振込用紙は入っておりません。ご送金と前後した場合はお許してください。

領収証が必要な方はご連絡下さい。領収証をお送りいたします。よろしく願いいたします。